

# 巻 頭 言



取締役  
千葉製鉄所副所長 大西 建男

昨今の日本経済の構造的な変革の中、鉄鋼業の置かれた状況は従来にも増して流動的になっており、不透明感は拭えません。鉄鋼業に限らず、あらゆる産業のグローバル化、ボーダーレス化により、より一層、独自性のある企業への転換が求められています。日本を含むアジア経済の低迷はしばらく続くと予想されますが、この時期に 21 世紀に向けての新しい企業造りの活動が必要であります。

特に、市場ニーズの多様化、新たな価値観への対応は、今後の企業存続の鍵となるテーマであり、LCA（ライフサイクルアセスメント）に代表される製品の総合的な地球環境負荷低減への対応や、PL 法に示される製品そのものの安全性向上は、ますますそのニーズが増すものと思われます。当然、お客様での製造コストを含む一貫コストの削減、最終製品の機能までを含む品質向上、受注から納入までの期間短縮などは、今まで通り主要なニーズであることには変わりはありません。

これらの要求に対応すると同時に、当社の経営基盤である薄鋼板製品の品質、コスト競争力を確保すべく、平成 7 年 5 月に薄鋼板製造技術の集大成として千葉製鉄所に熱間圧延工場を新設し、世界初の画期的なエンドレスストリップ圧延技術を開発しました。本技術の導入により、従来設備では困難であった高精度熱間圧延鋼板、薄物広幅鋼板、良加工性鋼板、各種高抗張力鋼板などの製造や開発が容易になりました。あわせて、水島製鉄所においても上工程から下工程にかけ種々の設備改造を推進、新製品の開発・品質改善を推進してきました。

本特集号では、上述の市場ニーズに応えるべく開発を進めてきました。最近の熱間圧延から表面処理にわたる薄鋼板新製品、中でも千葉製鉄所熱間圧延工場の新機能であるエンドレス圧延、超高潤滑圧延、強力・高応答寸法形状制御、高精度温度制御などを活用した熱間圧延鋼板、また新特性を付加した熱間延鋼板を素材とする冷間圧延、表面処理、缶用鋼板の薄鋼板製品を紹介しております。

今後とも、お客様と一体となった活動を展開する所存であり、薄鋼板分野の発展のために、多方面からのご批判、ご教示をお願い致します。